

2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月12日

上場会社名 サークレイス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5029 URL <https://www.circlace.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長(氏名) 佐藤 司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 吉川 光瑛 (TEL) 050(1744)7546
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	3,202	18.5	11	△78.3	9	△83.7	4	△93.8
	2,701	30.9	52	—	59	—	70	—

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 △22百万円(-%) 2025年3月期第3四半期 △18百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	1.00	0.98
	16.29	16.12

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
2026年3月期第3四半期	百万円		百万円		%	
2025年3月期	1,600		937		64.2	
	1,822		929		54.5	

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 1,028百万円 2025年3月期 992百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 社 (社名) 、除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期 3Q	4,377,566株	2025年3月期	4,344,385株
② 期末自己株式数	2026年3月期 3Q	112株	2025年3月期	69株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期 3Q	4,362,541株	2025年3月期 3Q	4,312,203株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について）

当社は、2026年2月12日（木）に決算説明資料及び決算説明会動画を当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(重要な後発事象)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移しました。一方で、物価上昇の継続や海外景気の動向、為替変動等の影響により、企業の投資判断では費用対効果と投資優先順位の精査が一段と進み、投資領域の選択と集中を強める動きが見られました。

当社グループが属する情報サービス産業においては、競争力強化および生産性向上を目的としたデジタルトランスフォーメーション（DX）の取り組みが継続し、基幹システムの刷新、業務プロセスの再設計、セキュリティ強化、データ活用の高度化等に関連する需要は底堅く推移しました。加えて、生成AIの業務適用が広がる中、単なるツール導入にとどまらず、業務・データ・システムを一体で再設計する取り組みが進展しており、構想策定から実装、運用・定着までを一貫して推進できる体制への期待が高まっております。他方で、デジタル人材の需給逼迫や開発・運用コストの上昇、プロジェクトの複雑化に伴う品質・納期管理の重要性が増しており、適切な体制設計と生産性向上の両立が引き続き課題となっております。

このような事業環境下、国内のパブリッククラウドサービス市場は、DXの進展に伴い、従来の周辺業務領域にとどまらず、基幹領域を含むシステムのモダナイゼーションやクラウド移行の取り組みが継続して進展しました。あわせて、全社データの統合・利活用、データ基盤の整備、生成AIの業務実装に向けた検証・導入が広がり、クラウドは企業変革を支える基盤としての重要性を一段と高めております。クラウド活用が深化するにつれ、セキュリティおよびデータガバナンスの強化、コスト最適化（FinOps）、運用高度化、利用部門への定着支援等のニーズが拡大しており、導入支援に加えて、活用定着から高度化までを継続的に支援できるパートナーに対する期待が増しております。

このような状況下、当社グループにおいては、コンサルティングサービス、アオラナウ株式会社（連結子会社）が提供するサービスの各サービスで堅調な売上を確保し、結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は3,202,233千円（前年同四半期比18.5%増）となりました。

一方で、継続した人的資本投資のための人事費及び社員募集費が増加し、さらに、地代家賃、システム関連費用等が同様に増加しており、売上原価が1,852,093千円（前年同四半期比22.9%増）、販売費及び一般管理費が1,338,788千円（前年同四半期比17.2%増）となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの実績は、営業利益11,351千円（前年同四半期比78.3%減）、経常利益9,606千円（前年同四半期比83.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益4,343千円（前年同四半期比93.8%減）となりました。

当社グループにおける各サービスの状況は以下のとおりであります。

① コンサルティングサービス

当第3四半期連結累計期間におけるコンサルティングサービスの売上高は2,546,219千円（前年同四半期比7.7%増）という結果になりました。

そのうち、コンサルティングの売上高は1,136,199千円（前年同四半期比4.4%減）、AI&Data Innovationの売上高は1,277,711千円（前年同四半期比19.8%増）、SaaSサービスの売上高は132,308千円（前年同四半期比22.4%増）であります。

コンサルティングは想定を下回る結果となりましたが、効率化の取り組みを継続しており、第4四半期以降の収益改善を見込んでおります。AI&Data Innovationは当初の予定通り堅調に推移しております。また、SaaSサービスにおいては、海外給与計算の新機能を実装したことにより、AGAVEの売上が引き続き好調に推移しております。

② アオラナウ（連結子会社）

アオラナウ株式会社はServiceNowのコンサルティングサービスを提供しており、当第3四半期連結累計期間における売上高は656,014千円（前年同四半期比94.3%増）という結果になりました。

売上は引き続き堅調に推移しており、さらなる成長に向けて基盤強化を進めてまいります。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は923,382千円となり、前連結会計年度末と比べ406,045千円減少しました。これは主に現金及び預金が510,023千円減少したことに対して、売掛金が23,679千円増加、前払費用が54,721千円増加したことによるものであります。主な内訳は、現金及び預金323,331千円、売掛金454,616千円、前払費用107,167千円であります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は677,063千円となり、前連結会計年度末と比べ183,914千円増加しました。これは主に有形固定資産が173,526千円増加、投資有価証券が50,000千円増加したことに対して、敷金及び保証金が62,858千円減少したことによるものであります。主な内訳は、有形固定資産193,258千円、のれん109,547千円、投資有価証券109,470千円、敷金及び保証金127,581千円、繰延税金資産82,674千円であります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は657,936千円となり、前連結会計年度末と比べ175,832千円減少しました。これは主に未払法人税等が58,694千円減少、未払消費税等が65,121千円減少、契約負債が57,907千円減少、賞与引当金が128,237千円減少したことに対して、買掛金が69,591千円増加、1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債が48,232千円増加、未払金が32,879千円増加したことによるものであります。主な内訳は、買掛金110,779千円、1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債196,892千円、未払金102,965千円、未払費用68,213千円、未払消費税等40,908千円、契約負債64,598千円、賞与引当金22,100千円であります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は4,704千円となり、前連結会計年度末と比べ54,823千円減少しました。これは主に転換社債型新株予約権付社債が48,232千円減少したことによるものであります。内訳は、株式給付引当金4,704千円であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は937,804千円となり、前連結会計年度末と比べ8,525千円増加しました。これは主に資本金が15,654千円増加、資本剰余金が15,654千円増加したことに対して、非支配株主持分が27,033千円減少したことによるものであります。主な内訳は、資本金423,688千円、資本剰余金472,323千円、利益剰余金130,557千円、非支配株主持分△90,349千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点の業績は当初予想を下回って推移していますが、第4四半期に売上・利益の計上が集中する見通しであり、2025年5月13日に「2025年3月期 決算短信」で発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

今後、業績予想の修正が必要と判断される場合には速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	833, 354	323, 331
売掛金	430, 936	454, 616
前払費用	52, 446	107, 167
その他	12, 689	38, 267
流动資産合計	1, 329, 427	923, 382
固定資産		
有形固定資産	19, 732	193, 258
無形固定資産		
ソフトウエア	15, 189	13, 895
ソフトウエア仮勘定	5, 388	38, 281
のれん	119, 817	109, 547
無形固定資産合計	140, 394	161, 723
投資その他の資産		
投資有価証券	59, 470	109, 470
敷金及び保証金	190, 439	127, 581
繰延税金資産	82, 674	82, 674
その他	438	2, 356
投資その他の資産合計	333, 022	322, 081
固定資産合計	493, 149	677, 063
資産合計	1, 822, 576	1, 600, 446

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	41,188	110,779
1年内返済予定の長期借入金	14,570	—
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	148,660	196,892
未払金	70,085	102,965
未払費用	68,339	68,213
未払法人税等	64,596	5,901
未払消費税等	106,030	40,908
契約負債	122,506	64,598
賞与引当金	150,337	22,100
役員賞与引当金	14,500	—
株式給付引当金	14,908	12,167
役員株式給付引当金	4,304	1,072
その他	13,742	32,336
流動負債合計	833,769	657,936
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	48,232	—
株式給付引当金	11,296	4,704
固定負債合計	59,528	4,704
負債合計	893,297	662,641
純資産の部		
株主資本		
資本金	408,033	423,688
資本剰余金	456,669	472,323
利益剰余金	126,213	130,557
自己株式	△59	△108
株主資本合計	990,857	1,026,460
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,737	1,693
その他の包括利益累計額合計	1,737	1,693
非支配株主持分	△63,315	△90,349
純資産合計	929,279	937,804
負債純資産合計	1,822,576	1,600,446

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	2,701,235	3,202,233
売上原価	1,506,727	1,852,093
売上総利益	1,194,508	1,350,139
販売費及び一般管理費	1,142,251	1,338,788
営業利益	52,256	11,351
営業外収益		
受取利息	43	567
有価証券利息	—	632
保険解約返戻金	8,000	—
保険配当金	1,352	—
為替差益	3,294	1,948
その他	179	3,250
営業外収益合計	12,870	6,399
営業外費用		
支払利息	775	27
社債利息	4,159	6,005
貸倒損失	—	920
株式交付費	1,140	1,147
雑損失	0	43
営業外費用合計	6,076	8,144
経常利益	59,051	9,606
特別利益		
新株予約権戻入益	946	—
資産除去債務戻入益	—	4,790
特別利益合計	946	4,790
税金等調整前四半期純利益	59,997	14,396
法人税等	78,897	37,071
四半期純損失（△）	△18,900	△22,674
非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	△89,158	△27,018
親会社株主に帰属する四半期純利益	70,258	4,343

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純損失(△)	△18,900	△22,674
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	736	△59
その他の包括利益合計	736	△59
四半期包括利益	△18,163	△22,733
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	70,810	4,299
非支配株主に係る四半期包括利益	△88,974	△27,033

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっています。

なお、法人税等調整額は法人税等に含めて表示しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	コンサルティング事業	アオラナウ事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,363,565	337,670	2,701,235	—	2,701,235
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10,261	17,147	27,408	△27,408	—
計	2,373,826	354,818	2,728,644	△27,408	2,701,235
セグメント利益又はセグメント 損失(△)	212,376	△160,119	52,256	—	52,256

(注) 1. セグメント売上高の調整額は、セグメント間の取引消去等です。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	コンサルティング事業	アオラナウ事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,546,219	656,014	3,202,233	—	3,202,233
セグメント間の内部売上高 又は振替高	18,900	80,348	99,248	△99,248	—
計	2,565,119	736,363	3,301,482	△99,248	3,202,233
セグメント利益又はセグメント 損失(△)	57,103	△45,751	11,351	—	11,351

(注) 1. セグメント売上高の調整額は、セグメント間の取引消去等です。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、「アオラナウ事業」の重要性が増したことから、従来の「デジタルプラットフォーム事業」の単一セグメントから、「コンサルティング事業」、「アオラナウ事業」の2区分に変更しております。

なお、当第3四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	9,806千円	36,926千円
のれんの償却額	10,270〃	10,270〃